［野田市］　清水地区社会福祉協議会



参加者だけでなく自分たちも楽しむ その活動内容は無限大

さくらんぼの会

野田市にある清水地区社会福祉協議会（以下、清水地区社協）は、日々エネルギッシュに活動を推進しています。活動のポイントは、常に新しい試みを模索し続けること。それによって、参加者だけでなく地区社協のメンバー自身も楽しみながら活動を続けることができると言います。今回は、そんな清水地区社協の取り組みを紹介します。

地域に根ざした確かな取り組みを展開中

清水地区社協が発足したのは平成10年。その前身となった組織が、昭和63年発足の清水小域福祉圏地域ぐるみ福祉推進委員会です。野田市社協と協働しながら、高齢者が認知症や要介護状態にならないよう、その予防を目標として活動してきました。

清水地区社協は、清水会（自治会連合会）、各自治会の福祉担当者、民生委員・児童委員、清水ボランティアグループ“あしたば”のメンバーなど、地域で活動するあらゆる人々が集まって構成されています。その活動内容も非常に豊富。メインは①さくらんぼの会、②しみず遊友（ゆうゆう）サロン、③高齢者防災訓練などですが、他にも、電話で一人暮らしの高齢者の話し相手となる「お元気コール」、高齢者向けの暑中見舞いや年賀状の送付、保育園を訪問しての交流、幼児や小学校低学年を対象とした「子ども映画館」などを実施しています。これらの活動を心待ちにしている参加者は多く、平成25年度の全活動をまとめた参加者数は、なんと延べ1,500人を超えるとか。10年前に比べるとほぼ倍増しているとのことで、地区社協メンバーの尽力によって地域に根ざした確かな取り組みが展開されていることが伺えます。



左から、清水地区社協の会計 菅原桂子さん、顧問 秋山彦市さん、会長 戸辺敦子さん、事務局長 草野富美子さん

アンテナを張って新しい試みを

さくらんぼの会は、清水地区社協がまだ清水小域福祉圏地域ぐるみ福祉推進委員会として活動していた昭和63年度より実施しており、平成26年12月で54回目を迎えました。対象者は65歳以上の方で、毎年６月・12月の年２回開催。毎回100人以上が参加する大人気な会です。活動開始のきっかけは、老人クラブより「家に閉じこもりがちな高齢者に、どうにか外に出てきてもらえる方法はないだろうか」と相談が持ちかけられたことだそうです。

この会の特徴は、毎回趣向を凝らした出し物が行われることです。午前中は楽器に合わせて歌を披露する発表会を行ったり、体操やフォークダンスを行ったり。時には悪徳商法や防災の講話を聞いて勉強することもあります。昼食をはさみ、午後には缶ボーリングや新聞紙を使ったファッションショーなどのレクリエーションを行い、大いに盛り上がるとのこと。「毎回同じことをしていれば楽かもしれませんが、それでは自分たちも面白くない。日頃からアンテナを張って常に目新しいものを探しています。アイディアを思いついて提案すると、地区社協のメンバーも快く賛成して協力してくれるので、より良いと思える活動が続けられています」と、清水地区社協会長の戸辺敦子さん。「一人でやるのではなく、みんなで楽しみ、そして何か一つは学びを得られる活動にすること」――そういった意識を大切にしています。



さくらんぼの会。缶ボーリング

自由に参加できる楽しいふれあいの場

平成８年から始まった「しみず遊友サロン」は、正光館で毎月第４土曜日、青年館で第４水曜日の午後に開かれます。65歳以上なら誰でも参加でき、時間内であればいつでも自由に来ることができます。会場では使用済みの切手を整理したり、ギターの先生の伴奏に合わせて合唱したり、お手玉やけん玉、かるたなどの昔遊びを行ったり。さらには健康体操、お茶会、生け花、お饅頭づくりなど、活動内容は尽きません。

これらの様々な活動を通じて参加者同士の仲も深まり、個人的なつながりにも発展しているとのこと。一緒に食事をしたり、入院したと聞いたらお見舞いに行ったりしているそうです。

現在の課題は、会場が遠くて参加しにくい方がいることです。そのため、会場を２か所から３か所に増やすことも検討しています。

防犯・防災のために定期的に意識を高めていく

清水地区社協では、防犯・防災対策も重要な活動の一つと考えています。各自治会でも防災訓練等は実施されていますが、高齢者はなかなか参加しにくいという課題がありました。そこで、地区社協としても平成８年から高齢者向けの防災訓練を開始したのです。

活動開始当初は消防署の協力により消火器訓練、応急処置の仕方、バケツリレー、ＡＥＤ訓練等の具体的な防災訓練を行ってきましたが、高齢者を狙った悪徳商法や詐欺が世間で問題になり始めたことをきっかけに、現在は消防署や警察署の職員からの講話を中心としています。もちろん防犯の講話のみにシフトしたわけではなく、3.11以降は特に、地震発生時の対処法などについても学んで意識を高めています。



しみず遊友サロンで昔遊び

講話は年１回、「さくらんぼの会」や「しみず遊友サロン」の中で実施しています。「さくらんぼの会」50回記念の際には、防災対策に取り組む地元企業より講師を招いて防災講話をお願いしました。

また、清水地区社協では小学校の登下校時の見守り活動も行っており、地域の防犯にも貢献しています。

いざという事態に対応するためには、常日頃から防災への意識を住民がしっかりと持つことが大切だと考え、メンバーは日々活動を続けています。



防犯・防災対策で消防署の防災訓練

野田市社会福祉協議会

職員同士連携しながら地区社協活動をサポート



野田市社協　矢口純一さん

野田市社会福祉協議会（以下、野田市社協）の職員は、22 か所ある地区社協を、一人につき約４地区ずつ担当しています。活動内容については基本的に各地区社協の自主性を尊重しているため、市社協の主な役割は後方支援です。サロンの内容の相談に乗ったり、社会資源を探したり、行政とのパイプ役を担ったりと、地域の活動が円滑に進むようにサポートしているのです。

職員同士の情報交換も密に行っています。例えば、市内にある東京理科大学のジャグリングやマジックのサークルにボランティアとして来てもらい、好評を得た地区があったので、他地区の担当者とも情報共有しました。

より良い地区社協支援を行うため、こういった情報交換は欠かせないと野田市社協の矢口純一さんは考えます。「経験の浅い職員も多いですし、積極的に活動に参加して経験を積みながら、更なる活動を支援していきたいですね」とのこと。

また、男性や若い方にももっと地区社協活動に参加してもらうため、まずは活動を見てもらえるよう、今後はPR 活動にも力を入れていく必要を感じているとのことです。

※野田市人口：156,124人　65歳以上人口：40,002人　高齢化率：25.6%（平成26年4月現在）